

3.1.1 けいはんな情報通信融合研究センター

活動概要

ネットワーク上で、人（ユーザ）へのケアに力点を置いたインタフェース・コンテンツ技術の研究開発を軸に、情報弱者の支援・多様なユーザによるITコンテンツの利用・享受に直結するコミュニケーションシステムの実現を目指す。平成13年度は計画初年度として、基盤技術の整備、システム適用への基礎データ収集と設計に力点を置いた。

活動結果

(1) 外部評価の実施

中期計画の開始に当り、その効果的な実施に向けて外部の専門委員による評価委員会を実施した（7月）。当センターからの提示内容に対して与えられた意見を基に、プロジェクト内容及び体制について年度後半に修正・改善を進めた。

(2) 研究推進

ロボティクス技術を軸としたヒューマンインタフェース技術についてはシステム実装による充実とデモンストレーション等による外部アピール・普及に重点化した。言語処理技術については、独自技術に基づいたプロジェクトの明確化を進め、国際化に力点を置いた。コンテンツ処理技術については、基本コンセプトのブラッシュアップ・プロジェクト構築と再検討に力を注いだ。

(3) 外部連携の強化とオープンラボの設営

けいはんな及びその外での対外交流に基づき、奈良先端科学技術大学との包括的連携を取りまとめ、さらに、民間の参加を中心とした研究連携構築に向けての個別検討を進めた。特に、年度末で方向性の出た、平成13年度補正予算によるけいはんな産学官連携オープンラボの設計と運営準備に向けて、関経連との連携を軸として各民間研究機関、大学、総務省等との間で連絡・検討を進めている。その案の骨子について取りまとめた。

(4) その他

認知発達ロボティクス国際ワークショップ（スウェーデン、8月）や日中自然言語処理国際会議（けいはんな、10月）などの開催、センターオープンハウス（けいはんな、2月）の実施により、情報発信・交流を進めた。